

放
場 ³²

福田米三郎 ⁴²⁵

けっさり 眼をくぼませ 放場の果の老けて

疲れた 我の親しさよ

まなこ

きらりきらりと 眼光をせ 真夜中の酒を憎し

み憎しみ 飲んでみた

看筋をとって ぐいぐい 押伏せられるやうに

敗北の酔ひを 苦しめてみた

達しい ^{生きもの} 生物と組み 組敷かれろやうに 酔ひ

つぶれておる 一匹の 我か

あふら

黄色い 貌に 脂を 浮かせてみたであらう 怪し

けなものの に 流砂を くれられた